

## リオ2016大会における輸送の状況について

## 1 リオ大会概要

## (1) オリンピック

開催期間：2016年8月5日（金）～8月21日（日） 17日間

競技数：28競技

## (2) パラリンピック

開催期間：2016年9月7日（水）～9月18日（日） 12日間

競技数：22競技

## 2 輸送関係の状況

## (1) 参考となる取組

## ア インフラ整備

○オリンピックに合わせて、大会開催の中心地となるバッハ地区への移動経路となる地下鉄（1路線）、高速道路（1路線）、BRT（3路線）を整備。このうち、地下鉄4号線、トランスオリムピカ線（BRT&道路）は大会直前に完成し、観客や大会関係車両専用を使用

○オリンピックパーク観客用の大規模歩道橋や、パラリンピック時の選手用バス発着場など一部の大会時の需要に対しては仮設にて対応



新設された地下鉄4号線



選手用バス乗り場（パラリンピック大会時）

## イ 大会関係者輸送

○オリンピック時は、主要道路（片側3～7車線）にオリンピックレーンを1～2車線設置。運用主体はリオ市。大会関係車両の確実な運行に大きく貢献。一方、レーン設置道路及びその周辺で渋滞が発生

○オリンピックレーンの運用は①専用レーン、②優先レーン（大会関係者以外に路線バス等も利用）、③シェアレーンの3種類

○違反罰金は128リアル（約4千円\*）。 ※1リアル=31円。平成28年9月末時点

○バス及びフリート用車両基地をオリンピックパーク、選手村周辺に4か所（延べ面積：約20ha）設置



オリンピックレーン設置状況



バス車両基地状況

## ウ 観客・スタッフ輸送

○観客及びスタッフは全て公共交通機関を利用。観客用の駐車場は設置せず

○リオは立候補ファイルに、観客の公共交通利用無料化を記載していたが実施せず。代替策として、一定期間公共交通が乗り放題となるトランスポートカードを有償で提供（1日25リアル（約800円））。実施主体はリオ市

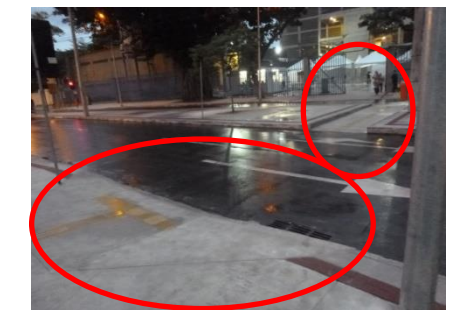
○鉄道のバリアフリー化については、大会に合わせて、会場周辺駅等でエレベーターの新設など対策を実施

○道路のバリアフリー化については、観客のアクセス経路において、切り下げや点字ブロックの設置などを実施



オリンピックスタジアム最寄駅に

新設されたエレベーター



アーチェリー会場アクセス経路の状況

(切り下げと点字ブロックを設置)

## エ 輸送センター

○リオ市は2010年の水害を契機に設置された都市オペレーションセンター内に輸送部門を設置し、交通状況などを把握し、必要に応じて対策を指示。リオ組織委員会は輸送調整センター、バス/フリートオペレーションセンターを車両基地内等に設置し、車両運営等を実施。リオ市と組織委員会は双方に職員を派遣し、情報を共有

## オ 交通需要マネジメント（TDM）

○学校の長期休暇時期の変更（7月→8月）、大会期間周辺の4日間の休日化（①開会式前日、②開会式、③トライアスロン開催日、④閉会式翌日）をリオ市長の権限で実施。休日設定日は渋滞が減少

○貨物自動車の通行禁止：平日午前6時～午後9時まで